

第2回 山形県立博物館友の会役員会記録

2008年10月11日（博物館会議室） 出席者10名

■会長より

世界経済停滞のなか、研究費削減などの博物館運営に余波が及ばないことを願っている。友の会として微力ながら博物館支援をはかっていきたい。

■議 題

1 第2回山形県立博物館友の会講演会

- ・演題「山形県の寺子屋を追って その2」12月6日（土）博物館講堂にて開催決定。
- ・第3回講演会は2月中下旬ころの土曜日に、第3回役員会と同日開催予定。

2 『最上川と人びとの暮らし』（2008.7.19～8.24開催）図録の発行

- ・図録発行は当初計画がなかったが、入館者から出版を望む声があり、また調査や展示の成果を形に残すことが必要と考え、友の会発行を決定。発行部数700部。出版事業会計補正予算を組む。

3 図録等の頒布

- ・会員特典提供と在庫整理を目的に、会員価格を設定（100円単位2割引程度）する。20年経過した出版物は会員価格を半額程度とする。
- ・博物館ボランティアに図録を提供できないかという意見があり、友の会からではなく博物館発行分から提供を検討するよう博物館に伝えることになった。ただし、『最上川と人びとの暮らし』の図録は、友の会独自出版（博物館発行分がない）のため、博物館ボランティア分も含め博物館に提供する。

4 21年度博物館・友の会共同企画展「私の宝物」（仮称）

- ・会員の「宝物」を持ち寄り展示。2009年12月頃開催予定。→具体的には、次回役員会にて提案。

5 鉢植えの設置

- ・博物館の美化と友の会活動のPRを目的として、玄関前に花の鉢を設置する。手入れ等の面で博物館ボランティアの協力を要請して共同事業としたい。

6 その他

- ・『学芸員の宝もの』（朝日新聞、昨年度連載終了）を編集発行検討。著作権や版権の確認をすすめる。
- ・来年度以降の事務局体制について。

■報 告

1 福島県立博物館友の会訪問報告 …会報3号のとおり。

2 友の会刊行物頒布状況



第2回 山形県立博物館友の会講演会報告

12月6日（土）、「山形県の寺子屋を追って その2」と題した石島会長の講演会が行われ、会員17名と一般13名の、あわせて30名が参加しました。寺子屋で教材として使っていた往来物（おうらいもの）の話では、大河ドラマ「天地人」の主人公・直江兼続が家康に送ったといわれている「直江状」についても紹介されました。そのほか、往来物の話をお聞きし、寺子屋では単に読み書きを学んだのではなく、学習内容は多岐にわたるものだったことを知りました。

石島会長のユーモアを交えたお話に、会場にはたびたび笑いが起こりましたが、山形大学にお勤めだった頃は、その美声(?)に学生が眠ってしまうこともあったとか…。

来年2月には、第3回友の会講演会を予定しており、石島会長にさらにお話をさせていただきます。

山形県立博物館友の会 出版事業会計 平成20年度補正予算書

収入の部

科 目	20年度当初予算額 (a)	20年度補正予算額 (b)	計 (a)+(b)	備 考
繰越金	1,192,760		1,192,760	
図書頒布収入	300,000		300,000	送料負担含む
雑収入	1,400		1,400	預金利子
計	1,494,160	0	1,494,160	

支出の部

科 目	20年度当初予算額 (a)	20年度補正予算額 (b)	計 (a)+(b)	備 考
事業費	187,400	359,730	547,130	
印刷費	168,000	359,730	527,730	『庄内の自然』 200部 124,950 『最上川と人びとの暮らし』 700部 402,780
仕入費	16,000		16,000	西ノ前土偶鋳物
頒布送料	400		400	
雑費	3,000		3,000	
繰出金	250,000		250,000	一般会計(20年度)に繰り出し
予備費	1,056,760	-359,730	697,030	『最上川と人びとの暮らし』発行
計	1,494,160	0	1,494,160	

『最上川と人びとの暮らし』図録の配付・頒布の内訳

配付・頒布先		部数	内訳
配付	山形県立博物館	104部	職員(24部)、博物館ボランティア(52部)、博物館協議会委員(11部)、保存用(12部)、閲覧用(5部)
	資料借用先等関係個人・機関	105部	35か所(各3部)
	執筆者	10部	
	図書館	9部	国立国会図書館(3部)、山形県立図書館(3部)、山形市立図書館(3部)
	県教育庁	6部	文化遺産課(3部)、教育やまがた振興課(3部)
頒布	会員・一般	466部	
合計		700部	

☆新刊☆ 友の会出版物のご案内

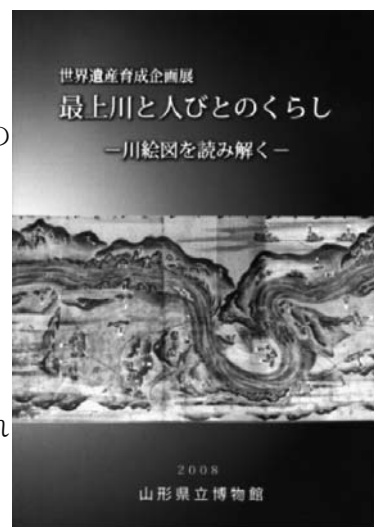
『最上川と人びとの暮らし—川絵図を読み解く—』(2008) (学芸員 押切智紀執筆)

一般価格 700円

友の会会員価格 600円 53ページ

「最上川の文化的景観」の世界遺産登録を目指し、県民意識を醸成しようとの目的で開催されたこの展示会には、多くの来場者がありました。当初、博物館では展示図録作成の予定がありませんでしたが、会期中から「展示図録をぜひ作って欲しい」との要望が多数寄せられました。友の会では、博物館で無理なら友の会で発行できないものだろうか検討し、このほど、展示を担当した学芸員の執筆・編集のご苦勞によって、発行が叶いました。

最上川絵図は、このたびの調査で15点確認され、そのうち14点が展示されました。図録には川絵図だけでなく、舟運関係資料、最上川を利用した庄内藩の参勤交代や出羽三山参詣の資料などが収録されています。友の会は、博物館への支援と、地域への貢献を活動目的のひとつとしています。本図録の一部は、展示資料をお借りした所蔵先をはじめ、ご協力いただいた関係者、そして山形県立博物館に友の会から無償提供されました。



資料紹介

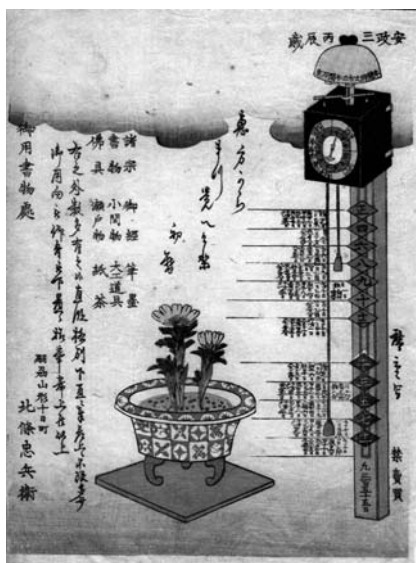
「正月引札」・「往来手形」

嘱託 熊谷 水緒

山形県立博物館では、平成19年度から今年度にかけてワークショップ「古文書解読の初歩」(前後期5回ずつ)を開催しました。この講座では講師の説明だけでなく、参加者が実際に古文書を読んでいくという方法をとりました。やはり自分自身で調べるといふ作業にこそ、古文書を読む楽しさがあると思います。

さて今回は、その講座で使用した資料を2点ほどご紹介いたします。

「正月引札」



「引札」とは今でいう広告で、これは山形市十日町の崑崙堂(北条忠兵衛家)が安政3(1856)年正月に出したものです。一見すると普通の絵に見えますが、この中には様々な工夫がほどこされています。まず中央には「フクジュ草」(別名・元日草、旧暦の正月頃咲く花)、瀬戸物には「宝珠」「のし」「巻き物」など、めでたい模様が描かれています。これらは正月を象徴するものとして描かれたのでしょう。次に右側には台時計と尺時計があります。台時計の文字盤には十二支と「^{こんじん}金神」・「^{さいはしん}歳破神」などその年の吉凶方位が描かれています。また尺時計の文字盤は、それぞれ「正・四・・」「二・三・・」と分かれています。これは12ヶ月を、大の月(一ヶ月が30日の月)・小の月(29日の月)に分けたものです。つまりこれらは時計ではなく、時計に見立てた暦なのです。そして左側には「小間物」「書物」「瀬戸物」など様々な品物名が書かれています。^{こんろん}崑崙堂は書物関係を中心に、日用品から茶や大工道具など幅

広い品物を扱っていたようです。最後にこんな一言がそえてあります。「右のほかにも数多くの商品を取り揃えております。お値段は格別お安くいたしますので、御用の際には多少に関わらずお申しつけ下さいますよう、お願い申し上げます。」



「往来手形」

観音寺村（現東根市観音寺）に住む「りの」という女性が今神温泉（現戸沢村）へ向かう時の旅行許可書です。江戸時代には旅行をする際、身分証明書を兼ねた旅行許可書が必要であり、それがこの往来手形です。名前・住所・年齢・旅行先・目的などが明記されており、村や町の責任者が発行します。これがないと関所を通ることも宿泊することもできませんでした。現在のパスポートのようなものです。内容を簡単に訳しますと、「羽州村山郡観音寺村・惣八姪・りの（38才）。右の女性が、新庄・今神温泉行きを願い出、今月16日に村を出発します。万が一、道中で

病気などで死亡した場合は、そのこの作法で取り計らってください。後日のため、往来手形をしたためます。嘉永7年7月。観音寺村・名主（出張のため）代理・組頭門平。新庄今神・役屋のお役人様方へ。」となります。往来手形には大抵の場合、このように道中で死亡した場合の注意事項も書かれています。当時の旅が現代より過酷であったと想像されます。目的地の今神温泉は、古くは月山への登拝路にあたり、参拝者が身を清めるための場所で、どんな難病にもきくとされていたようです。そのため普通の温泉とは異なり、湯船には蠟燭がともされ、服を着たまま念仏を唱えながら入浴しました。この「りの」という女性も、何か信仰上の目的から今神温泉へ向かったのかもしれませんが。あるいは難病をわずらっていたのでしょうか。

博物館解説員を10年してみても思うこと

展示解説員 永幡智子

この職に就いたとき、博物館で働きたいという希望が叶ったにもかかわらず、たくさんの小学生団体が訪れると聞き、まずいなあ…と思った。教育学部に在学した学生時代、実習に行った保育園の砂場で背後から襟をつかまれ湿った砂を背中にザラザラと入れられたことがトラウマになり、子どもに対する苦手意識を引きずっていた。何をしてもかすか分からない小さな子どもを避けて、卒業後は通信制高校に勤めたものの、働きながら学ぶ生徒や、貧しい家庭環境にあり失った高校時代を取り戻したいという生徒に比べ、私自身は世間知らずで無知なことを痛感して落ち込んだ。大学では教員になるための方法しか学んでこなかったと思った。教員免許を取得したとはいえ、これを伝えたいというものが自分に無いのが情けなくなり、この職業はやっていけないと考えた。まずは、ここから離れ、知らない世界を覗いてみようというのが動機だった。

恐れずに言うと、博物館に来るまで動植物に興味を示すこともなければ、地域のことに大して関心がなかった。花や鳥について教わり、町の歴史を知ったら、季節の移り変わりを感じられるようになり、様々なものが目にとまるようになった。博物館を訪れる人や博物館ボランティアと、その楽しさを共有できることで喜びは一層増した。友の会事務局員をしている現在、こんなところに、友の会活動に携わるきっかけがあったと言える。

博物館を訪れる子どもは、学校行事として来ることが多いから、私はたいてい1時間程度のお付き合いをする。いつ頃からか、苦手…と思っていた子どもとも、話がはずむこともあると気づいた。「蜂に刺されたことある？お

父さんがこないだ刺されたの!」「ヤマガラとシジュウカラの声って聞き分けられる?」「イシダイを釣るとき、砂をひとつかみ海に投げると餌だと思って寄ってくる」などと、小学生が言うことにこちらが根掘り葉掘り聞いてしまうことがあり、こういう自然体験を持っている子どもは話題が豊富だな、と思うことが多い。もっとも博物館見学中には、サッカーの試合やお笑い番組について話題にすることはあまりないから、化石や昆虫が好きな子どもがここぞとばかりにクラスメイトや私に話したがっているだけかもしれない。どうやら、博物館で嬉々とした姿を見せるのは、街なかよりも街から離れた学校の子どもの多いとの印象を持っている。恐竜の名前を片っ端から言えたり、国内外にわたる鉱物コレクションについて自慢げに語る子どももいるけれど、身近な自然と自分の体験とが結びついている子どもの生き生きした感じは、本当に好ましい。

身近な自然や地域を知ることが、こんなにも毎日を楽しくさせると分かり、この10年を振り返っている。私ごとだが、来年は子どもが生まれる予定。子どもに伝えたいこと、というのが見えてきた気がする。

展示会の見どころ

平成20年度 企画展「修験の山・金峯山の秘宝—その歴史と文化財—」

庄内地方では古くから修験道が存在し、本館でも標題にある「^{きんぼうざん}金峯山」をはじめ修験に関する資料の展示を行っています。中でも「金峯山」にまつわる品々については今まで一括して展示されたことがなく、全貌を把握することがなく現在に至っています。

今回の展示は、未公開資料も含めて県内外に公開することで、金峯修験ひいては修験道の一形態をつまびらかにしていくことを目的としています。

◆開催期間：平成21年1月10日（土）～4月22日（水）

◆会場：山形県立博物館 第3展示室

◆記念講演会：平成21年3月7日（土）午後1時30分～
3時30分（本館講堂）

講師：金峯山博物館学芸員 松浦光也氏

演題：「修験の山・金峯山の歴史」

◆展示解説会：1月10日（土）、2月14日（土）、3月14日（土）
午後1時30分より（本館学芸員が行います。）

【主な展示内容】

（1）金峯素描—山内の風景—

金峯山内の名所や国の名勝地にも指定されている景観を切り取りご紹介いたします。

（2）金峯山の歴史

一山内や庄内の各資料館に収められている史料を展示し、金峯山の歩んできた道のりを辿ります。

（3）金峯山の遺跡

一山内の遺跡（藤沢岩屋遺跡、青龍寺）を取り上げ、修験の山と



霊峰・金峯山



金峯神社本殿

して隆盛を誇っていた頃の金峯山を探ります。

(4) 金峯山の文化財

一山内の社寺である金峯神社、六所神社、青龍寺の3つの社寺に
収められている貴重な資料を、未公開資料を含めて紹介いたします。

【主な展示資料】

◇金峯素描

青龍寺／六所神社／金峯神社社務所／（旧南頭院）／金峯山博物館
（旧金剛院）／空賢院跡／国指定重要文化財金峯神社本殿ほか

◇金峯山の歴史

金峯萬年草／鶴岡市指定有形文化財最上義光寄進状／
酒田市指定有形文化財弘采録ほか

◇金峯山の遺跡

藤沢岩屋洞窟遺跡出土品／青龍寺表採資料

◇金峯山の文化財

金峯神社・・・県指定有形文化財如意輪観音坐像
／鶴岡市指定有形文化財鰐口／笈
／唐櫃／絵馬ほか

六所神社・・・県指定有形民俗文化財獅子頭／

三如来三菩薩像ほか

青龍寺・・・大日如来坐像ほか



如意輪観音坐像（県指定）

（金峯神社所蔵）

一面六臂の像で、穏やかな表情を
しています。意匠から平安時代の
作と言われています。



最上義光奉納鰐口

（鶴岡市指定）

（金峯神社所蔵）



正平6年獅子頭（県指定）

（六所神社所蔵）

現在六所神社には南北朝から
昭和までの6頭がおさめられ
ています。



大日如来坐像（青龍寺所蔵）

本来、湯殿山仙人澤の行屋
の本尊として祀られていま
した。明治時代になり谷定
の大日寺に一時安置され、
青龍寺に至っています。



神馬図（金峯神社所蔵）

寛永7（1630）年に奉
納されたもの。「静」・
「動」一対としています。

お 知 ら せ

来る1月23日（金）午後1時30分より本館講堂にて、県文化遺産課主催の世界遺産学術公開講座が開かれます。講師は、首都大学東京助教岡村裕氏で、演題は「最上川における眺望景観の保全方策―国内外事例との比較から―」です。入場は無料で、定員は約40名です。詳しくは県教育庁文化遺産課まで。

電話 023-630-3342 F A X 023-630-2874 E-mail ybunkaisan@pref.yamagata.jp